

調査期間 2011年9月16日～継続中
所在地 伊勢原市子易地内
時代 近世、中世、奈良・平安、弥生、縄文、旧石器
調査原因 中日本高速道路株式会社による
新東名高速道路建設事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査
遺跡位置 小田急小田原線伊勢原駅の北西約
3.5キロに位置する。



主な調査成果

丹沢山地南東縁から鈴川右岸段丘面に立地する遺跡で、2012年度から継続して調査を実施しています。過年度調査において、旧石器時代の礫群、縄文時代中期後葉の集落、後期前葉の集落、弥生時代の陥穴状土坑・土坑、中世の屋敷跡・区画溝といった多様な時期の遺構と、それに伴う膨大な遺物が発見されています。

2015年度は、丹沢山地末端縁にあたる調査区で、縄文時代後期中葉を中心とする集落と、それに伴うと考えられる墓域の調査を行いました。後期の集落は、竪穴住居址・敷石住居址・配石遺構群・列石などが緩斜面部末端に集中して占地するもので、現在までに12軒の住居址の重複が確認されています。この集落の東側には、同時期の墓域が展開していました。数十基からなる墓坑群で構成されるもので、長方形基調の土坑墓から墓坑周囲に大形礫を廻らせた配石墓へと形態が変遷していったことが分かっています。



縄文時代後期中葉の竪穴住居址（東から）



縄文時代後期中葉の列石（俯瞰）



縄文時代後期中葉の土坑墓群・配石墓群（北から）



縄文時代後期中葉の配石墓（西から）